

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項に準じて行われる。

2. 競技者の招集方法について

- (1) 招集所は、雨天走路内100mスタート側に設ける。
- (2) 招集開始時刻・完了時刻は、その競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

最終点呼は招集所で実施する。

競 技 種 目	集 合 開 始 時 間	集 合 完 了 時 刻
トラック競技	競技開始の30分前	20分前
フィールド競技	競技開始の50分前	40分前
棒 高 跳	競技開始の70分前	60分前

- (3) 最終点呼では、胸・背・腰のナンバーカード、スパイク、商標、バックなど競技場への持込み物品などの確認と点検を受ける。
- (4) 最終点呼は代理人は認めない。ただし、2種目同時に出場する場合は、競技者係及び、各関係部所の審判に連絡を必ず入れること。＜2種目同時出場届け（招集所に置く）を招集所に提出のこと＞
なお、当該競技者でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド種目に移動し担当役員にその旨を申し出ること。フィールド種目の途中でトラック種目に出場する場合は、競技開始前に担当役員に申し出ること。
- (5) 欠場する場合は、各種目招集開始時刻前までに『欠場届』を招集所に提出し、招集場の招集用紙に×を付ける。（欠場届は招集所に設置）
招集完了時刻に遅れた場合は、当該種目を欠場したものとする。（その後、棄権届を提出する。）
- (6) リレーのオーダー用紙の提出時刻は、第1組目の招集完了時刻1時間前までに招集所に提出すること。（オーダー用紙は招集所に用意する。）
- (7) 競技エリアへの入退場は、担当役員の指示で入退場する。
- (8) スタートリストは招集完了時間の1時間前に掲示する。

3. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは主催者側より配布された物を胸・背部につけ、トラック種目に出場する競技者は腰用のレーンナンバーを招集所より受け取り、右腰部に付けること。
なお、跳躍競技の競技者は背または胸部のどちらか一方でもよい
- (2) 長距離種目（1500m以上）は、競技者係から配布されたレーンナンバーを胸・背・腰に使用する場合がある。

4. 競技について

- (1) トラック競技はすべて写真判定装置を使用する。
- (2) トラック競技のレーン順および、フィールド競技の試技順はプログラム記載順による。
トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は主催者側の抽選により決定される。
- (3) プロ訂正用紙及び事前に棄権がわかっている者は、本大会規定の用紙に必要事項を記入し、大会前日の15時30分まで、もしくは大会当日の15時00分までに大会本部へ提出する。
- (4) 長距離種目は、参加人数によりグループスタートを採用する。
- (5) トラック種目は全てタイムレース決勝とする。
- (6) トラック競技の着順については、100分の1秒で同記録の場合は1000分の1秒まで確認し判定する。
それでも同記録の場合は、同順位とする。
- (7) フィールド競技は、長さ・高さの種目ともに2回の試技でトップ8を決定し、決勝ラウンドも2回の試技とする。

5. 競技方法について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は以下の通りとする。（天候等により変更もありうる）

		練習	競技開始	トップ8決定まで	トップ8決定以降
走 高 跳	男子	1m75	1m80	5cmずつ上げる	2cmずつ上げる
	女子	1m45	1m50		
棒 高 跳	男子	3m60	3m80	10cmずつ上げる	5cmずつ上げる
	女子	2m20	2m40		

* 棒高跳の支柱移動用紙は招集所で受け取り、現地で審判に報告すること。

- (2) 三段跳の踏切位置は競技運営上、次の通りとする。 男子12m・女子10m

6. 競技用用具

- (1) 競技に使用する用具は、全て主催者が用意したものを使用しなければならない。
ただし棒高跳用ポールは、個人所有のものを使用できる。
- (2) 投てき用具については、公表された競技場備え付け用具リストにないものは持ち込みを認める。
希望者は、当該種目の招集開始2時間前から1時間30分前までにゴール側、用器具庫内で検査を受ける。
ただし、検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。
競技終了後に担当総務員が、ゴール側用器具庫内で返却するので取りに来ること。
- (3) フィールド競技で、助走路に使用できるマーカーは、主催者が用意したマーカーを使用すること。
- (4) スパイクピン数は11本以内、長さは9mm以内とし、やり投げ、走り高跳びは12mm以内とする。
また、スパイクの先端近くで、長さの半分は4mm四方の寸法に適合するものとする。

7. 表彰について

表彰式は行わない。賞状については正面玄関ロビーに設置した表彰状置き場から持っていくこととする。

8. 練習会場と日程

- (1) 練習は、原則として本競技場・補助競技場および雨天走路を使用し、「練習会場使用日程表」に従うこと。
- (2) 投てき種目の練習会場は、投てき練習場とする。ただし砲丸投は補助競技場（コーン仕切内）のみとする。
(注) 練習会場の投てき用具は各自で持参したものを使用すること。
(注) 投てき練習が行われた場合は、他の選手はコーン仕切内でのアップは禁止する。
(注) 練習場には照明設備がないため、薄暮時は特に気を付けて練習すること。

9. その他

- (1) 競技中に発生した傷害については、応急処置のみ主催者側で行い、その後の責任は負わない。
医務室は本競技場玄関ホールの横に設置する。（熱中症対策をしっかり行うこと）
- (2) ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用することや所持することは助力とみなされる、最終点呼を受けた後は、使用したり、所持はしないこと。失格の対象となる。
- (3) 応援旗・部旗・横断幕・のぼり旗などは、スタンド最上段を利用すること。
＜スタート後方、ゴール前方は避けること＞
- (4) 競技エリア内での助力は禁止する。スタンドからの助言はコーチングエリア内に限る。ただし、競技運営ならびに他の競技者の競技に妨げになってはならない。また、競技者は勝手に当該競技場所を離れてはならない。
- (5) 集団応援などは、正面スタンドからは禁止とし、サイド及びバックスタンドの中段より上からは許可するが、フィールド競技中に近くでの応援は禁止する。
- (6) テントの設置は補助競技場芝生内（練習に支障のない場所）かスタンドの中段より上で設置すること。
本競技場内および補助競技場内の雨天走路内での休憩場所としての場所取りは禁止とする。
- (7) チーム・個人で出されたゴミは、全て各自で責任を持って持ち帰ること。
- (8) トレーナーサービスコーナーは本競技場内雨天走路に設置する。

貴重品の管理を各自・各チームでしっかり行い、不審者がいた場合は早急に大会本部へ連絡ください。